

審美の庭をゆく

文化(Culture)の語源は、ラテン語「Cultus(たがやす)」。
つまり知識の庭をたがやすことが、教養を深め文化を創造するという意味。
ここでは、日常の風景に潜む美や、視点を委ねることによって見えてくる文化の一面など、
知識の庭をたがやす庭を紹介していく。

小さな港町から『伊豆北川温泉ムーンロード』 生まれた ムーンロード ものがたり

秋はお月見の季節。
一年でもっとも美しいとされる中秋の名月をはじめ
人は昔から秋の月夜に願いを込め
水面に映る月の姿を見つけては、詩に詠み、愛でてきた。
静岡県東伊豆町には、
水平線から出る月を眺めて愉しむことを観光資源として着眼し
『ムーンロード』の名で商標登録を果たした港町がある。
今回はこの港町を訪ね、秋の名月を味わってみようと思う。



◎エクシブ伊豆より車で約20分
◎リゾート熱海より車で約1時間10分



Story of Moon Road

「伊豆北川温泉ムーンロード」は、
「日本百名月」(一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー)の第15号に認定されている。

新

月にはじまり、三日月、
上弦の月、十三夜月、満
月、日に日に大きく丸くなっていく
月に名前をつけ眺めて楽しんだ日
本人。満月の後になると、十五夜
よりも少し遅れて出てくる様子を
して、いざよう(ためらうの意味)
と表現し、十六夜月と名付けた。
さらに17日目は、今か今かと立つて
待つという意味から立待月。18日
目は、ゆったりと出迎えるため座つ
て待つという意味の居待月。19日
目になると月の出が遅くなるので、
寝て待つという意味の寝待月。昔
日の人びとにとって、漆黒の夜空に
浮かぶ月は貴重な光源でもあり、
月が出るのを心の底から待ちわび
ていたのだろう。とりわけ、海を
渡る者にとって、月は真つ暗な海を
照らしてくれる明かりであった。さ
らに潮の満ち引きと月の満ち欠け
には密接な関係があることから、
海で生きる人びとにとって月は暮ら
しの指針でもあったに違いない。

万葉集の中で、月を詠んだもの
は180首ほどあるが、海に浮か
ぶ月を詠んだものをひとつ紹介し
よう。

熟田津に
船乗りせむと
月待てば
潮もかなひぬ
今は漕ぎ出でな
(額田王)

これは大和朝廷の軍団が途中で
立ち寄った熟田津(現在の愛媛県
松山市)から船を出そうと月を待つ
ていたら、月が出てきて潮もよい方
向に流れており、今こそ漕ぎ出す時
だ、と前途を祝して詠まれた一首で
ある。このように、海に生きる人び
とにとって、月は士気を高める存在
にもなりえたのだろう。

静岡県の伊豆半島東海岸にある
東伊豆町に、ブリの水揚げ量が多
いことで有名な港町・北川がある。



伊豆北川駅から北川温泉のある海岸線を望む。定置網の漁船が見える。

現在も定置網漁が盛んで、アジや
サバ、イサキやイカなどが多く獲
れる漁場である。伊豆北川は小さ
な入江になっており、定置網の船
が停泊している。その海の水平線
に美しい月がのぼり、海面に月光
の道ができる風景を人びとは昔か
ら愛でてきた。地元の人のみぞ知
る神秘的な景色だった。

この美しい月の出が知られるよう
になったきっかけは、2013年、
静岡県が行った「エンゼルパワースポ
ット総選挙」*で、伊豆北川の月光
の道が1位に選ばれたことに端を
発する。北川温泉旅館組合は、こ
れを観光資源とするため、満月の
ころ、海上に現れる月の風景を『ム
ーンロード』と名付け、商標登録に動
き出したのである。観光化のための
施設やイベントを新たにつくるの
はなく、伊豆北川の海岸沿いに立
てばどこからでも見える美しい月夜
を紹介した。観光資源は、いつもの
景色の中にあつたのである。

*静岡県が2011年～2013年にかけて県民から広く募集したパワースポットの人気投票。

審美の庭をゆく

月光が 描き出す ムーンロードに 願いをこめて

月々に月見る月は多けれど
月見る月はこの月の月

月を観賞することは毎月できるが、名月を見るのなら今月がよいと表現した読み人知らずの短歌である。月の字が8回登場しているので、旧暦の8月、つまり中秋の名月※1のことを指しているといわれている。秋の月夜を観ることに、いかに精魂を込めていたのかがわかる歌である。地球や宇宙という概念がまだ存在しなかった時代に、人びとは月をどのように思い眺めていたのだろうか。そして伊豆北川の海に輝く『ムーンロード』は、どれほどの人の思いを見守り続けてきたのだろうか。

伊豆北川は人口約170人、60戸ほどの家々が建ち並ぶ集落である。

江戸時代の終わりには何らかの形で漁がはじまっており、やがて定置網漁が盛んになると東伊豆でも有数の漁場として発展し、同時に温泉街としても栄えていった。『ムーンロード』が商標登録されてからは、その月の風景を象徴する中心的な場所として『ムーンロードテラス』が静岡県環境整備計画の一環でつくられた。木製の階段式デッキは、満月の日を含む前後3日間は、『ムーンロード』を眺めることができる公営の場所となっている。今年の中秋の名月やスーパームーン※2は、『ムーンロード』の圧倒的に美しい月に照らされてみてはどうだろうか。月を見て、想い人に心を寄せ、明日に願いを託すのは、きっと今も昔も変わらない光景だろう。

※1 中秋の名月

旧暦の8月15日に見える月のことで、一年でもっとも美しいとされている。2025年の中秋の名月は10月6日、翌日の10月7日が満月(月齢の変化により中秋の名月が必ずしも満月とは限らない)。

※2 スーパームーン

月が1年でもっとも地球に近づき、大きく見える満月のこと。この日の満月は遠点時と比較すると最大14%大きく見え、30%明るく感じられる。2025年のスーパームーンは11月5日。



2023年に完成したムーンロードテラス。

伊豆北川温泉ムーンロードテラスの周辺スポット



海拔0mの波打ち際にある「黒根岩風呂」は、伊豆北川公営の露天風呂。水平線と同じ目線で天然温泉に浸ることができる。



伊豆急行 伊豆北川駅の副駅名が日本一長い39文字の「北川あじ鯨を食べて、波打ち際の露天風呂黒根岩風呂に入り、ムーンロードに出会う駅」となったのは、2025年2月。北川温泉旅館組合が伊豆急行とネーミングライツスポンサー契約を結んで命名した。



伊豆北川から見える伊豆大島に、月の出が見えた瞬間。(北川温泉旅館組合撮影)



伊豆北川の海岸からは、伊豆大島が見える。



故・重岡建治氏によるモニュメント「幸せを呼ぶ」の少年が吹く笛の先に、月の出が見えた瞬間。(北川温泉旅館組合撮影)



伊豆高原に在住していた彫刻家、故・重岡建治氏によるモニュメント「幸せを呼ぶ」は2023年に完成。魚に乗った少年が笛を吹くモチーフで、魚のボディにはハート型の窓があり、そこから月の出や海の景色の記念撮影ができる。

MyRESORT

vol.135 SEPTEMBER 2025

